

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて 連合・2015 平和行動 in 広島

8月5日、原爆投下から70年となる広島において「連合・2015 平和行動 in 広島」が開催され、JR 連合の旗のもと JRE ユニオンからは国井事務局長、高橋中央執行委員が参加した。当日は35度を超す猛暑の中、JR 連合中山政治・教育・広報部長、JR 四国労組及び JR 西労組・広島地本の仲間とともに、ピースウォークと称し、連合広島のボランティアガイドの説明を受けながら広島平和記念公園内の慰霊碑、原爆ドームや原爆供養塔などを巡った。原爆犠牲国民学



校教師と子供の碑では、被爆した女性教師が子供を抱いて絶望的な悲しいまなざしで空を見上げている壮絶な姿を目の当たりにし、平和の有りがたさを痛切に思うとともに、核兵器の廃絶と、世界の恒久平和を願わずには居られなかった。(国井)



「連合 2015 平和ヒロシマ集会」は、市内のホールにて開催され、引き続き JR 連合の仲間とともに参加した。先ず連合のニューヨーク派遣団からの報告では、唯一の被爆国のナショナルセンターとして、2015 核不拡散条約 (NPT) 再検討会議に合わせたニューヨークでの平和行動等の取り組みと、核廃絶の法的枠組みの重要性について報告を受けた。



被爆体験談では、原爆投下直後の広島の惨状、いかに死に直面し、生き抜いたかについて詳細に語られ衝撃を受けた。一方、戦後70年が経過し被爆第一世代の語り部が年々亡くなり、小中学生の知識が低下していることもあって、被爆者は命ある限り体験を伝えるとしながら、被爆者の会は被爆2世やサポーターにより継承し続けていくとの決意が表明された。また、核兵器の凄惨さを世界に伝えるため国連に派遣されている

高校生平和大使から、核廃絶と平和な世界の実現を目指す取り組みについて報告があった。最後に、「ヒロシマからの平和アピール」が採択され閉会した。

戦争の悲劇を乗り越え、平和な日本を維持してきた先人の努力に感謝すると共に、現在を生きる私たちも、戦争をしない努力を続けていかなければならないと改めて感じる事ができた。(高橋)